

船舶事故等調査報告書

平成25年4月25日
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故等番号	2012横第207号
事故等種類	乗揚（のり養殖施設）
発生日時	平成24年12月1日（土） 16時15分ごろ
発生場所	千葉県木更津市盤洲鼻西方沖 木更津市所在の木更津港防波堤西灯台から真方位009°4,550m付近 （概位 北緯35°25.1′ 東経139°52.1′）
事故等調査の経過	平成24年12月4日、本事故の調査を担当する主管調査官（横浜事務所）を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報	
船種船名、総トン数	モーターボート ダフィーダック ^{スリー} Ⅲ、7.9トン
船舶番号、船舶所有者等	235-25289千葉、アイ・ビー・テクノス株式会社
乗組員等に関する情報	船長、一級小型船舶操縦士
死傷者等	なし
損傷	本船 プロペラ曲損 のり養殖施設 枠網、仕切網、のり網及び浮子網切断
事故等の経過	本船は、船長ほか11人が乗船し、木更津港防波堤の切り通しを通過して北進中、のり養殖施設に接近して航行し、平成24年12月1日16時15分ごろ木更津市金田沖ののり養殖施設に乗り揚げて絡網した。 本船は、金田漁業協同組合の漁船に救助され、マリーナのポートにえい航されて定係地に帰航した。
気象・海象	気象：天気 曇り、風向 東北東、風力 3 海象：潮汐 上げ潮の末期 日没時刻：16時38分
その他の事項	船長は、盤洲鼻沖付近の航行経験が約5回あり、のり養殖施設が設置されていることを知っていた。 船長は、のり養殖施設の存在を示す黄色標識の内側を航行したことがよくなかったと思った。
分析	
乗組員等の関与	あり
船体・機関等の関与	なし
気象・海象の関与	なし
判明した事項の解析	本船は、盤洲鼻西方沖を北進中、金田沖ののり養殖施設に接近して航行したことから、のり養殖施設に乗り揚げたものと考えられる。
原因	本事故は、本船が、盤洲鼻西方沖を北進中、金田沖ののり養殖施設

	に接近して航行したため、のり養殖施設に乗り揚げたことにより発生したものと考えられる。
参考	今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。 <ul style="list-style-type: none">・ のり養殖施設の設置区域を確かめ、同区域に接近しないよう、標識から離れて航行すること。